

地域情報（県別）

【大阪】フットケア指導士が6人在籍、透析患者の足病変の早期発見に挑む-谷村信宏・愛仁会井上病院副院長らに聞く◆Vol.2

糖尿病で足病変の患者の約4割がフットケアを受けていない現実を知ってほしい

m3.com地域版

愛仁会井上病院（吹田市）は、フットケアチームを結成し、透析患者のフットケアにより足病変の早期発見・治療に取り組んでいる。副院長で心臓血管外科の谷村信宏氏らに、フットケアチームの概要や取り組みについて聞いた。

（2024年2月15日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら



（左から）診療放射線技師 天野大輔氏、特定看護師 根木美紀氏、西山育美氏、副院長 谷村信宏氏

——井上病院のフットケアチームについて教えてください。

谷村 末梢動脈疾患（PAD）の診療に、関連ある全ての診療科・部門によるフットケアチームで対応しています。スタッフは医師2人、看護師10人、診療放射線技師1人、理学療法士1人、臨床検査技師1人、臨床工学技士1人、事務系職員3人です。日本フットケア・足病医学会の認定フットケア指導士の資格取得者が、私を含め6人で、また血管診療技師（CVT）の資格取得者が2人です。

内科医師(循環器、糖尿病内分泌、人工透析)や看護部門などは、潰瘍発生前の予防的フットケアから糖尿病、心疾患などの診療を含めた全身管理と血液透析、LDLアフェレーシスなどを、心臓血管外科は末梢血管治療（EVTおよび外科的血行再建）などを行います。また、壊死部分のデブリードマン・局所陰圧閉鎖療法（NPWT）や足部/下肢切断などは非常勤の形成外科医と共に心臓血管外科で対応します。

——フットケア外来も行っています。診療内容について教えてください。

谷村 当院の看護師がフットケア外来をしています。2011年から糖尿病合併症管理料を算定することになったことがきっかけです。フットケア外来から私の方に診察の依頼が来る場合もありますが、他の医療機関から紹介で来る患者は、私が先に診察してその後フットケア外来で診てもらう方が多いです。

西山 フットケア外来は、私以外の糖尿病療養指導士およびフットケア指導士の資格を持つ看護師が週1回行っており、1人当たり30分以上時間をかけて、足を守るための予防方法の指導から、爪、鶏眼（うおのめ）や胼胝（たこ）などの処置を行います。足病変を有する患者の多くは、閉塞性動脈硬化症を有しています。2016年に下肢末梢動脈疾患指導管理加算が算定できるようになったこともきっかけになっているのですが、透析患者のほぼ全例で足首と上腕の血圧を測定する足関節上腕血圧比（ABI）および重症虚血肢に対する皮膚レベルを血流評価する皮膚灌流圧（SPP）の測定を定期的に行っています。私自身は月に3~4回、巻き爪に対するワイヤー矯正外来を行っています。

——フットケアチームにてカンファレンスを行っていますね。

谷村 毎月1回カンファレンスを行っています。カンファレンスの内容は、例えば傷や壊疽がなかなか治らない患者の場合は、EVTの方が良いのか、外科的血管再建が良いのか、または患部の壊死組織をメスで取り除く手術（外科的デブリードマン）を行うべきかを検討したりしています。

——多職種でのフットケアチームの役割について教えてください。

根木 私は入院病棟患者のフットケアを担当しています。各病棟でのフットケアが必要な入院患者が常時5~10人いますので、創面清掃や、異物の除去、挫滅・汚染された組織の切除、さらに薬剤等による局所処置を行います。足を診察した際に何かあればすぐに医師へ報告するように心がけています。また、各病棟の看護師から入院患者のフットケアについて相談を受けたり、指導を行ったりしています。

西山 私は透析棟の患者のフットケアを担当しています。当院の透析患者は、約20人が包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）を併発しています。CLTI患者が当院の透析棟にて血液透析を行っている時に、足壊疽のリスク分類を行い、足の切断に至らないように定期的に確認し、早期発見治療につなげています。

天野 私は血管診療技師（CVT）の資格を取得した診療放射線技師です。CVTとは動脈硬化や下肢静脈瘤、糖尿病壊疽、エコノミークラス症候群などに代表される血管疾患診療に対して専門知識と実技技術を有する医療従事者に与えられる専門資格です。フットケアチームとしてのCVTの業務は、血管超音波検査やSPP検査などに代表される非侵襲的検査を行ない、医師の治療の介助にコメディカルとして関わります。

——北大阪フットケア勉強会を主催されています。立ち上げた経緯を教えてください。

谷村 同法人グループの高槻病院で勤務していた頃から、PADについて年2回勉強会をしていました。その頃は、高槻市区域の医療従事者に周知し、講師には全国の足病専門家を招いて講演してもらいました。私が当院へ人事異動になって、同じように勉強会ができないかと思い、北大阪フットケア勉強会を2015年10月に立ち上げました。年1回の開催で、参加者は医師およびフットケア指導士資格を持つ看護師をはじめ、多くの施設から医療従事者が参加しています。

——2022年度の診療報酬改定で「下肢創傷処置」「下肢創傷処置管理料」「静脈圧迫処置」が新設されました。現在の算定状況について教えてください。

谷村 2022年度は下肢創傷処置が4478件、月1回算定の下肢創傷処置管理料は277件および静脈圧迫処置が4件です。2023年度は12月までの実績で下肢創傷処置が3809件、下肢創傷処置管理料が227件、静脈圧迫処置が11件です。

——診療報酬改定で年々透析技術料の引き下げが見受けられます。透析患者の多い井上病院として、今後どのように透析医療に取り組もうと考えていますか。

谷村 当院の経営は透析医療あってであり、それによりフットケアや末梢血管診療が成り立っています。2022年度の改定では透析技術料は必要以上に引き下げられ、年々透析医療機関を取り巻く環境は厳しくなっています。私は心臓血管外科専門ですが、当院の副院長として、ここ3回の診療報酬改定を経験し、透析医療に対する風当たりは医療界の中でも非常に厳しいものを感じています。厚生労働省に透析医療の実情を理解いただき、適切に透析医療を行っていくことができる環境の維持、透析技術料の引き下げ阻止を2年毎の改定前に、訴え続けていかなければなりません。

——今後のフットケアチームの展望をお聞かせください。

谷村 先ほども述べましたが、当院には私を含め6人のフットケア指導士が在籍しています。特に当院のような規模では特筆すべきことかと思えます。当院と同じような病床数127床、透析棟200床規模の病院では、フットケア指導士がいたとしても、通常は1人か2人だと思えます。今後もフットケア指導士を取得する医療従事者が増え、多くの医療機関でフットケアチームを結成し連携できればと思っています。私自身もフットケアの実務実習や講演会などで、フットケア指導士のやりがいについて発信しています。

2024年2月10日の「フットの日」に第5回日本フットケア学会・足病医学会関西地方会学術集会在奈良であり、私は世話人をしました。第6回では副会長、第7回で会長をすることになっていますので、ぜひとも多くの方にご参加いただいて、各医療機関内のフットケアチームの取り組みを発表していただきたいです。

また市民講座については、2024年2月20日には「足のいたみと歩行困難」についての講演会を、2024年5月11日にはABI検査や看護師によるフットマッサージ体験などを行い、フットケアの重要性について理解を深めてもらうよう積極的に活動していきます。

——最後に大阪の医師にメッセージをお願いします。

谷村 足壊疽が疑われる糖尿病患者は、一刻も早く専門の医療機関または当院に紹介していただければと思います。1週間診療が遅れただけでも救肢できなくなる事態になる可能性があります。

また、糖尿病患者で足病変の方の約4割がフットケアを受けていません。大阪の先生方にも定期的に勉強会を通じて足病変について広く知っていただき、フットケアについて当院が貢献できればと考えています。

◆谷村 信宏（たにむら・のぶひろ）氏

1984年3月神戸大学医学部卒業後、神戸大学医学部第2外科学教室入局。1990年7月大阪府済生会中津病院心臓血管外科。2001年8月兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科医長。2002年7月愛仁会高槻病院心臓血管外科部長。2013年4月蒼龍会井上病院血管外科部長。2016年4月同院副院長（血管外科主任部長）。2019年4月社会医療法人愛仁会井上病院副院長（血管外科主任部長）。※2019年組織変更に伴い蒼龍会井上病院から社会医療法人愛仁会 井上病院に名称変更。

【取材・文・写真＝田中 嘉尚】

記事検索

